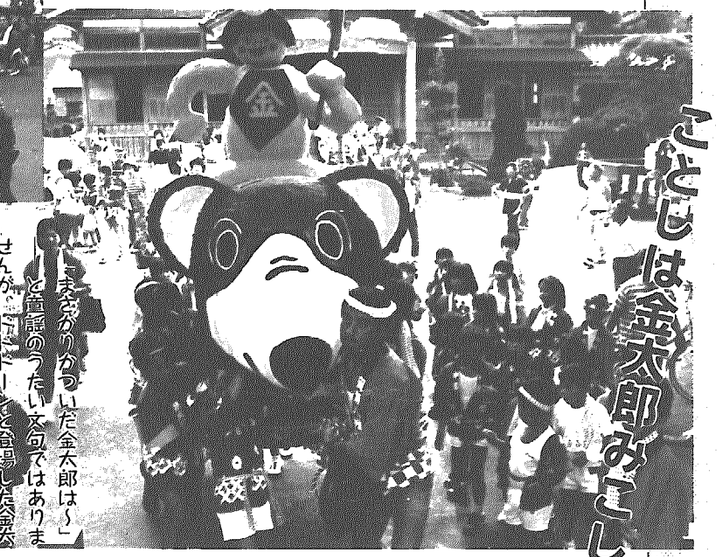
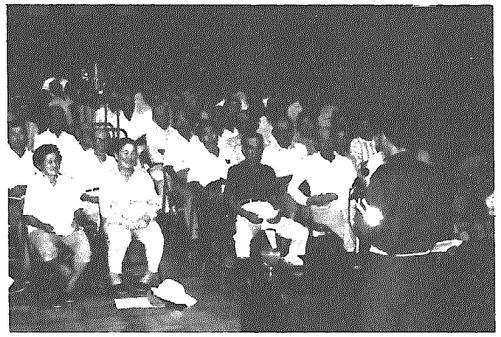
ユニーク？な秋まつりでコミュニケーション

ことし初めて登場した"獅子舞い"子供たちの中には泣き出す子も。



ことしは金太郎みこし

まつりかついだ金太郎は～」と童謡のうたい文句ではありませんが、「ドッコイショ」と登場した金太郎みこし。ことしもユニークさで有名な問瀬八幡太祭が先月十五日、絶好のまつり日和の中で行われました。大人のかつぐ本みこしを先導に、毎年地区民の笑いと注目を集める子供会のみこし群。今回はこの金太郎みこしをはじめ話題のキョンシーやミニーマウスの三点が登場。みんな子供たちが課外活動？で作製したもので、どれもしっかりしていて大丈夫そう。そのためか、みんなは思いっきり「ワッショイ、ワッショイ」と地区内を練り歩きました。



「相手に負けるな！」――と男の子も女の子も必死の形相？。実はこれ、先月13日に行われた岩室中学校体育祭での力強い綱引きの一コマ。引き方から見ると、男の子より女の子の方がよりパワフルに見えますね(失礼かな？)。ところで、体育祭は予定では先月11日の日曜日だったんですが、あいにくの雨で２日も延長。延びた分のうっぷん晴らしか、四つの軍団（赤・青・黄・白組）はお互いに全力を出し合い、大熱戦が繰り広げられていました。

相手に負けるな！それっ！一気に引け

おじいちゃん、おばあちゃん 交通事故に気をつけてね

――高齢者交通安全教室――

「おじいちゃん、おばあちゃん、交通事故には十分気をつけてね」――と先月十四日、秋の全国交通安全運動に合わせ、「高齢者交通安全教室」が公民館で開かれました。これは最近、お年寄りの交通事故が増えているため、正しい交通ルールとマナーをお年寄りのみなさんから再確認してもらおう―と開かれたもので、講師に巻警察署坂牧交通課長を迎え、具体的な交通ルールの事例や映画を使っての親切な説明が行われました。参加した約百人のお年寄りは、「たいへん勉強になりました。ふだんからちゃんと気をつけていなければいけないのね」と認識を新たにしていたようです。これを契機に交通事故には十分注意をしてくださいね。

岩室ネットワーク

■この広報紙にあなたが写っていましたら、総務課企画係（☎82－4111内線 215）へご連絡ください。写真をさしあげます。

いい顔、ありがとう

和納保育園のお月見会から（9月14日）

このひと No.12

八木（やぎ）トイさん（和納8区）

今月の「このひと」は、昨年、村から長寿の祝いをうけられ、ますます元気でお暮らしの八木トイさん（和納八区）をご紹介しましょう。

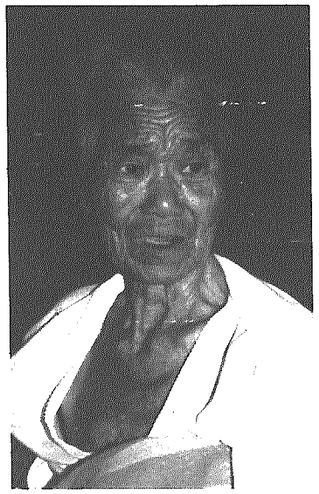
八木さんは、明治三十年九月六日生まれといいますから、ことしで満九十一歳。まだまだ目も耳も達者で暮らしています。ところで、八木さんは明治、大正、昭和の三代にわたり、いろいろな出来事を体験してきました。そんな八木さんから、「和納の古いことや話など、わかるっけ遊びにこねか、何か村の歴史資料の一つにでも役立てば」というきっかけから、先日、和納地区の古い話などを伺いに八木さんのところへおじゃましました。

さっそく、八木おばあちゃんの若いころのことをお聞きすると、「わたしが十七歳のころなんだろも、大雨のため西川の堤防が切れ、この辺は白鳥、北野地区を残し、ほとんどが水につかったことがありましてね、いやあ、そのときはお盆も間近かで墓参りなんかも一週間も延ばしたほどのひどい洪水でしたよ。そんときは西船越がいちばんひどく、もう男も女も関係なく復旧作業に駆り出されたもんだったね。それに復旧作業に使う資材（くいなど）もほとんどなくってね、たも木を切り倒しそれをくい替わりに使っていたんだよ」とそのころの苦労話を語る八木さん。いまでは、すっかり西川も改修され、ほとんど洪水にもみまわれるなんてこともありませんが、当時は、大小の洪水があったといいます。それに、そのころの水田というと、整地はできていたものの排水整備が十分でなかったため腰までぬかるほどの沼田ばかりで、「農作業なんかはいまとは大違い。そりゃ大変な仕事だったんだよ」という。

そんな辛く大変だった青春時代をおくられた八木さんたちにも、楽しい思い出がたくさんあったといいます。「そのころの楽しみといえばなんといっても、盆踊りと秋の十五夜祭りだったろっかね。ああ、それに神社境内によく芝居小屋が立ちそれもよく見にいったもんでしたよ。いま思うと、当時の祭りはいまの祭りと違い、各町内から燈籠（とうろう）が出され、そりゃあもうすごかったね。それと盆踊りは一か月近くも行われ、よく一晩中踊りあかしたもんだよ」と当時の楽しい思い出を鮮明に記憶している八木おばあちゃん。

このころの和納地区の祭り、花火といえば隣接町村からも羨望（せんぼう）の目で見られ、大勢の人たちが見物に来てにぎわったといいます。それに、戦時中は召集により出征する人たちを送るときにも花火を打ちあげ見送ったともいいます。ほんとうに楽しみの少なかった時代、八木さんたちと同世代の人たちには辛く厳しい時代であったといいますが、その反面、もっとも充実して楽しかったのもこのころだったと話していました。

今回は残念ながら、八木さんからうかがったいろいろな話を全部ご紹介はできませんでしたが、機会があればぜひご紹介したいと思います。八木さんおばあちゃん、これからも体に気をつけて、元気にお過ごしください。



足がちょっとご不自由な八木さんですが、聞くこと、話すことは実にしっかりしていて、とても91歳とは思えません。そのため、いくつもの懐しい話をしてくれました。(9月19日)